2023年度
神戸市外国語大学　魅力発信事業

いま伝えたい、ことばの力
ーコミュニケーション力を磨くー

神戸市外国語大学での学びには言葉の力が基本にあります。外国語を学ぶにあたって、語学力だけでは不十分、コミュニケーション能力が必要と言われています。ではどのようにそれを身に付けたらいいのでしょうか。
2023年度の魅力発信事業「いま伝えたい、ことばの力」では各界でご活躍の４名の講師の方々に、表面的な挨拶やビジネストークでは届かない「ことばのこころ」の部分に光をあてていただきます。
真の「コミュニケーション」とは何か、文章を書くこと、肉声で伝えること、そして本が担う役割とは、といった観点から「ことばの力」をさぐっていきます。

全４講演　2023年10月～2024年1月　（各講演の詳細は裏面をご覧ください）

第１回　「校正のこころ」

2023 10/12 木
大西 寿男
（校正者）

第２回　「言葉の力」

2023 10/26 木
山根 基世
（アナウンサー）

第３回　「これからの本屋」

2023 12/7 木
北田 博充
（蔦屋書店梅田店　店長）

第４回　「古い本からのメッセージ」

2024 1/25 木
指　昭博
（歴史家・神戸市外国語大学前学長）

参加無料　後日映像配信有※　申込不要

※第１回～第３回分まで

時間　各日 16:05 ～ 17:35

場所　神戸市外国語大学　大ホール
神戸市西区学園東町9丁目1
神戸市営地下鉄「学園都市」駅から徒歩3分

【主 催】神戸市外国語大学
【後 援】神戸市・神戸新聞社

■ 神戸市外国語大学魅力発信事業とは

神戸市公立大学法人としての幅広い教育・社会貢献活動の一つであり、知と文化を発信する本学の重要な取り組みです。
活動資金としての寄附も広く募っています。詳しくはホームページをご覧ください。寄附に関する詳細はこちらから ≫

全４回講演会　講師プロフィールと講演内容

大西 寿男
（校正者）

第１回　2023 10/12 木　16:05 ～ 17:35

後日映像配信有り

「本当はこう言いたかった」と思えるために

自分の話したこと、書いたことが、まちがって伝わったり、相手にねじれて届いたりした経験はありませんか？校正とは、本が世に出る前に、つまらない誤りや、言い過ぎや言い足りないところがないよう、書き手をサポートする仕事です。最初から完璧な言葉を紡げる人はいません。言葉をケアする「校正のこころ」についてお話しします。

神戸市生まれ。岩波書店、集英社、河出書房新社などで校正にたずさわる。担当本は『推し、燃ゆ』（宇佐見りん）、『失われた時を求めて』（プルースト）、『ユリシーズ』（ジョイス）など。2023年1月のNHK『プロフェッショナル　仕事の流儀』でその仕事が取り上げられる。校正セミナーの講師も務める。著書に『校正のこころ』（創元社）、『校正のレッスン』（出版メディアパル）、『セルフパブリッシングのための校正術』（日本独立作家同盟）などがある。

山根 基世
（アナウンサー）

第２回　2023 10/26 木　16:05 ～ 17:35

後日映像配信有り

今、身につけたい言葉の力

感受性や思考力が高い学生時代にこそ、身につけておいて欲しい言葉の力がある。自分の気持ちを表現し、相手の言葉を聞いてその心を理解するコミュニケーション力だ。それは、幸せな人生を切り拓く大きな力になるはず。その力を養うには何が必要なのか、様々な具体例から考えます。

山口県生まれ。1971年、NHKにアナウンサーとして入局。女性を対象とした番組、美術番組、旅番組、ニュース、ナレーション多数を担当。2005年、女性として初のアナウンス室長。2007年、NHK定年退職後は、地域作りと言葉教育を組み合わせた独自の活動を続けている。東京大学客員教授、女子美術大学特別招聘教授、学校法人 桑沢学園理事等を歴任。現在は学校法人 順心広尾学園理事。公益財団法人 文字・活字文化推進機構評議委員。シチズン・オブ・ザ・イヤー 選考委員会委員長。「山根基世の朗読指導者養成講座」講師、「声の力を学ぶ連続講座」主宰。著書に『こころの声を「聴く力」』（潮出版社）、『感じる漢字 心が解き放たれる言葉』（自由国民社）など多数。

北田 博充
（蔦屋書店梅田店　店長）

第３回　2023 12/7 木　16:05 ～ 17:35

後日映像配信有り

「これからの本屋」を考える ～新たな読者を創出するためのコミュニケーション～

昨今、読書離れや書店閉店に関するニュースをよく耳にしますが、書店業界の未来を明るいものにするためにはどうすればよいのでしょうか？インターネットが普及し、娯楽が多様化した今、若者は本なんか読まなくても楽しい毎日が過ごせます。そんな中、若者の可処分時間に「読書」が割り込むにはどうすればよいのか？そもそも本を読むことでどんなメリットが得られるのか？「新たな読者の創出」を基軸にし「これからの本屋」のあり方を考えます。

1984年生まれ。大学卒業後、出版取次会社に入社し、2013年に本・雑貨・カフェの複合店「マルノウチリーディングスタイル」を立ち上げ、その後リーディングスタイル各店で店長を務める。2016年にひとり出版社「書肆汽水域」を立ち上げる。同年、カルチュア・コンビニエンス・クラブ㈱入社。現在は、梅田 蔦屋書店で店長を務める傍ら、出版社としての活動を続けている。2020年1月、本・音楽・食のフェス「二子玉川 本屋博」を企画・開催し、2日間で3万3,000人のお客様が来場。著書に『これからの本屋』（書肆汽水域）、共編著書に『まだまだ知らない 夢の本屋ガイド』（朝日出版社）、『本屋という仕事』（世界思想社）がある。

指　昭博
（歴史家・神戸市外国語大学前学長）

第４回　2024 1 /25 木　16:05 ～ 17:35

古い本からのメッセージ ～時代を超えた情報を読み解き伝えること～

遠く隔たった時代に出版された本に込められた情報の読み取りはまるで謎解きのような楽しさと難しさがあります。歴史研究と小説や映画などの創作/フィクションの関係、意図的な「誤情報」の発信などの問題についてもあわせて考えながら、古い本が私たちに伝えてくれるメッセージを現代によみがえらせる術と発信術についてお話しします。

大阪生まれ。大阪大学助手、追手門学院大学文学部助教授を経て、神戸市外国語大学教授。2017 年より 2021 年 3 月まで同大学学長。日本シャーロック・ホームズ・クラブ会員。古書収集家。趣味の活版印刷でコロナ禍での新入生にアマビエを印刷した栞を配布。著書は『イギリス宗教改革の光と影 メアリとエリザベスの時代』（ミネルヴァ書房）、『イギリス発見の旅 学者と女性と観光客』（刀水書房）、『キリスト教と死－最後の審判から無名戦士の墓まで』（中央公論社）など多数。

Kobe City University of Foreign Studies
神戸市外国語大学

企画：並河葉子・金子百合子
協力：松田素子
撮影：SCIRE山田勇人

【問合先】神戸市外国語大学　魅力発信事業
【Mail】miryoku2023@office.kobe-cufs.ac.jp